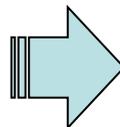




業務用生ごみ発酵処理機

排液排出タイプ



24時間後



株式会社アオスフィールド

生ゴミ処理機の種類

生ゴミ処理機

バクテリア方式

堆肥型

- 50%~70%の減容率
- 有機物を熟成させ、肥料としやすい成分とする。実際は肥料としてそのまま使用できる訳ではなく肥料の原料としての形である為、肥料製造のため2次処理の受入体制が必要である。また、食材によって成分が変動する為、安定した質の堆肥を作るのは難しい。

1週間に1度



堆肥型
残渣の取出しが必要

削減型 取出し不要



削減型 (ExBio) と堆肥型の比較
堆肥型は残渣が残るため機器容量が大きくなり、その為にモーターなども大きくなる
発酵臭が発生する

削減型 (ExBio)
コンパクト及び取出し不要
発酵臭が出ないので、屋内設置が可能

乾燥方式

- 50%~70%の減容率
- 乾燥するだけなので、量は減らせるが分解はしない。減容率が高く無い為、生ゴミ処理となると廃棄が負担となる。単一食品の処理に比較的大型の処理機が多く用いられている。

焼却方式

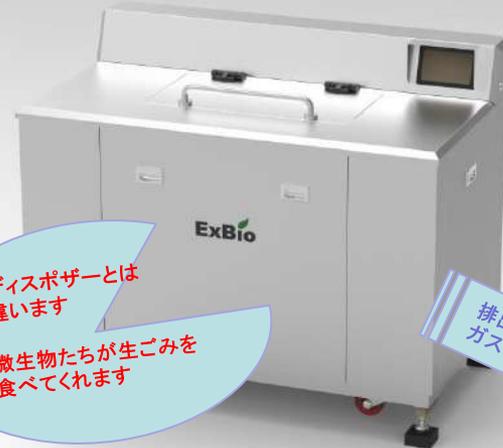
- 燃焼してしまうため、灰の状態まで減容出来るが
 - ダイオキシン類の発生
 - CO₂の発生
- 等環境に悪影響を及ぼす可能性があり法規制の対象となっている。

使う度に取り出し必要

ディスポーザーとは
違います

微生物たちが生ごみを
食べてくれます

排出されるのは炭酸
ガスと汚泥です



生ごみ処理機ラインナップ外観写真



外観や仕様は予告なく変わる場合があります

弊社設置生ごみ処理機メンテナンス実施中

100kg



300kg



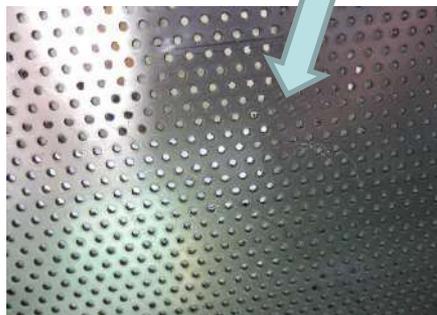
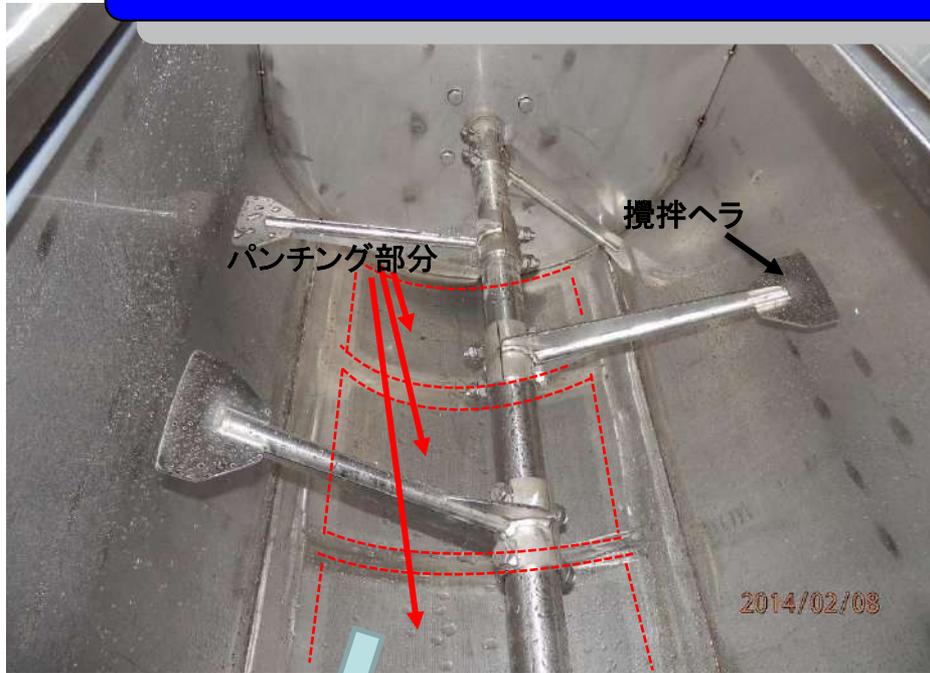
200kg



500kg



生ごみ処理機 排出型内部構造

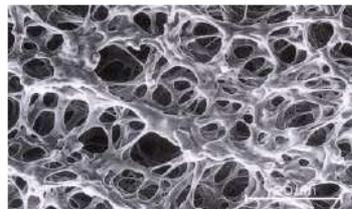


拡大写真
底部パンチング穴
○穴1.5mmです。



イメージ
菌床(H+W15mm)

菌床内部拡大写真
(この中に数億個の菌が住みます)



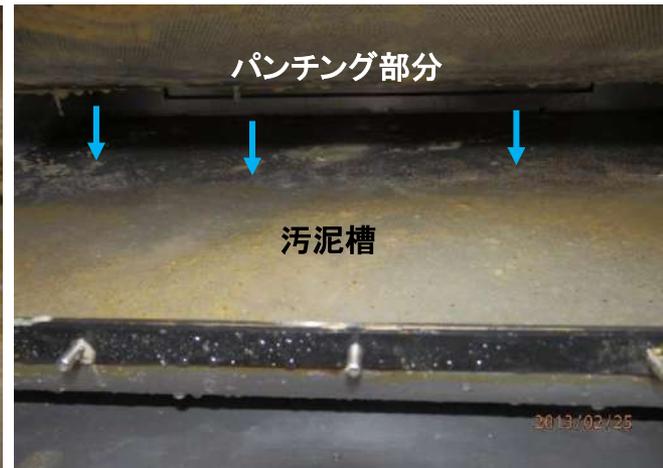
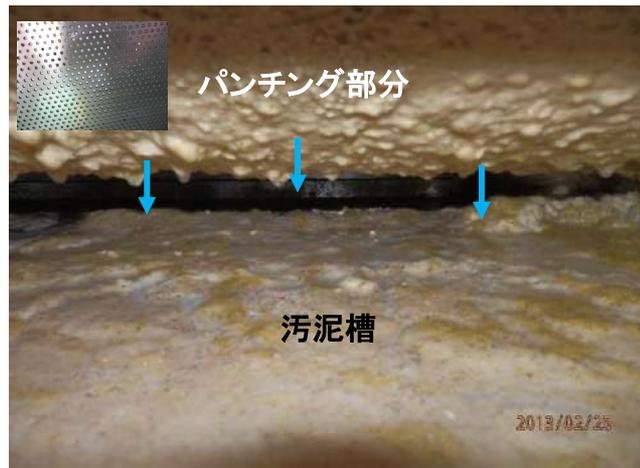
生ごみ処理機の庫内
底部にパンチングにて穴をあけた部分があります。
菌床の方が大きいのでパンチング穴から排出されず残ります。



生ごみ処理機 食材投入から分解排出状況

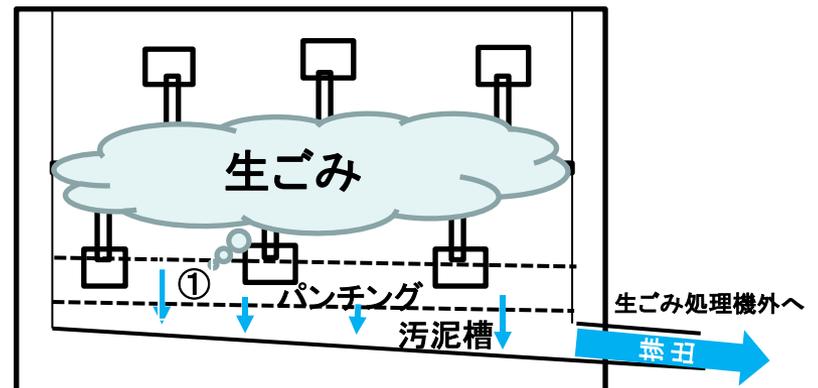


処理槽底部



食材により分解液の状態に違いが見えます

生ごみ分解排出 イメージ



パンチング穴1.5mmから分解液が排出されます。一部攪拌ヘラで押し出される汚泥も排出されます。(粉物などは分解される前に排出される)

生ごみ処理機よくある質問

Q.1日の処理量とは？

A.1日24時間で処理できる生ごみの重さです(キャベツなど体積のある物は一度に、処理槽内に入らない為、幾度かに分けて投入します)

例 1日/100kg処理機 朝50kg 夕方50kg = 合計100kg処理出来ました。

Q.ごみが無くなる前でも、追加投入できるの？

A.処理槽内に投入可能なスペースがあれば、追加投入して良いです。

.1日の投入量を超える投入は控えてください。

Q.なぜ水を使うのですか？

A.庫内環境の維持、清掃、汚泥の排出補助。

Q.生ごみを粉砕しているのでは？

A粉砕はしていません、微生物分解で、有機質を廃液にして処理(排出)しています。

Q.処理機から排出される分解液はきれいですか？

A.廃液の濃度(BODやSSなど)は高くなります。残飯でBOD20.000PPm

.分解途中で残渣が2mm程度になると処理槽底部から固形物として排出されるます。

Q.電気代は高の？

A.処理機内の微生物は好気性なので、酸素を供給しないといけないので、3分程度攪拌します、そのあとは10分程度停止しての繰り返しなので、常に動いているものでないため、安価です。

Q.他社製品でもこのようなタイプはありますか？

A.あります。

Q.他社との製品の違いは？

A.新技術を取り入れることで、分解速度の向上が出来ました。

安価で提供できる価格帯としました。

注:食材により、1日の処理量がカタログ値の処理量に満たない場合があります。減容量を保証することではありません。